

第4回夏季手当交渉報告

青年部は我慢の限界だ!!

会社は私たちが血と涙を流して出した黒字を還元しろ!!!

中央本部は、10時から第4回交渉を行い、会社は「現時点の考え」を明らかにしました。

【会 社】

- ①5月の収入動向はコンテナ、車扱の合計で、対計画99.1%、対前年102.3%。
- ②収入確保に向けて、引き続きインセンティブ施策等を行い、計画の達成に取り組んでいく。
- ③一方、今年度は動力費13億円、線路使用料9億円、その他を合わせると33億円の経費が増加する。
- ④会社として、昨年度の支給実績を基に考えていく。会社全体の収支状況を見た上で社員の生活の厳しさやモチベーションの向上、25年度決算の還元についても考慮して判断する。昨年度以上という考えである。

青年部は、「昨年の夏季手当が1.1ヶ月で青年部員は生活が出来ない状況となった。そして職場では、ハレーションが起きている。『1.1ヶ月にして悪かった…』と会社は認識していないのか!」「これまでの交渉で私たちの声や生活できない実態を言ってきたが、それを踏まえて社内で議論したのか!?!」「何で34億円の経常黒字が出たのか、会社はもう一度考えろ!」「私たちは昨年度も血を流した。一方だけが血を流すことは許さない!」「34億円の黒字は、どこに行くのか?ほとんどが税金として納めるのであれば、私たちに還元しろ!」と、会社に私たちの現実と意見や声をぶつけました。最後に、「昨年度のような超低額回答は絶対に許さない!!」と、怒声を上げました。

会社は相変わらず、「平成28年度までに鉄道事業を黒字にするために全力で傾注している。」や、「経営陣は全く今まで努力していない訳ではない。」などと言っています。経営陣が覚悟を持って収入拡大や構造的諸問題などの解決に努力をしていたら、今のような状況になっていますか? 私たちには、「賃金カット」「人件費の抑制」と言っておいて、昇格人事を行う経営陣の体質を見れば、なぜこのような状況になったのか分かります。

決戦ゾーンに突入!生活給を勝ち取るために全青年部員でたたかおう!!